

第四表

F. R. Hicks	22% (精神病的)	22% (精神病的傾向)
L. A. Peck	33% (適応異常)	17% (要治療)
N. Fenton	22.5% (適応異常)	
堀内敏夫(都田)	9.6% (μ)	
神奈川県教育研究所	40% (不安定)	
J. A. Broxon	35% (情緒的適応異常)	

ここではH、Nがそれぞれ(十パーセント以上)を異常傾向に属することとすれば(精研佐野氏他による)第三表のようになる。標準(精研佐野氏他)と比較すると著しく多く、特に現場に参加しているC校においてこの傾向が強い。

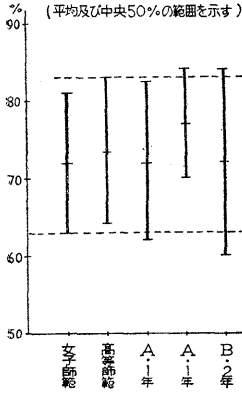
さらにこの結果を従来のが国および諸外国におけるものと比較すると、(第四表)

今までにも大体教員中、その二乃至三十%に適応異常を認めているわけであるがこの点、本調査でも大体同様の結果を得ている。

◎知能に関して

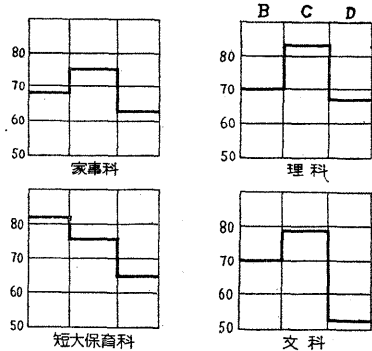
本調査に用いた「桐原式一般知能検査」は旧制の女子師範学校、女子高等師範学校その他について調査し、その結果を公表してあるゆえ、比較が便利である。第一図これ

第一図



により知能においては、旧制に比し殆んど大差ないことがわかる。さらに、各要素毎のプロファイルについて旧女高師のそれと比較したものが

第二図



次の第二図である。これによれば、再認(B)において勝り、完成および類推(C)および図形分割(O)は普通、であることがわかる。

# 積木遊びにおける幼児集団の比較

関屋幼稚園 清水 エミ子

- 一、目的 学齢前の幼児にどうしたら正しい社会性が身につく民主的な交友関係が結ばれるようになるか、この課題に対して積木遊びにおける幼児集団を比較観察してみた、
- 二、対象児 一年保育児(十一月—三月末までに生れた)男児二八名、女児一三名、計四一名。

三、方法 自由遊びの積木遊びを観察記録した(床上積木二箱、床上箱積木一セット)をあたえた。また、箱積木は十月中旬に加えた。

四、結果 グループ構成は七月になってややはっきりしてきた a (創造的) b (平行的) c (衝動的) の三グループに大別できるようになった。

#### 1、各グループの性格と特質

・ aグループ(積木遊びに対して積極的) 静的な性格の幼児が多く、知的活動を好み、創作を楽しみ、目的を持ち考えて遊びが進められ、開放的だけれども入り込める明るい性格のグループで作ったものを非常に大切に、こわれたり失敗したりすると残念がる幼児が多いグループ。

・ bグループ(積木遊びに対してはやや消極的) 強い個性の持主が多く、活動的なことを好み、長時間静的に行っていることを好まず、くり返しをたのしみ、たまにボスのな幼児が見られ、他のグループの幼児が入り込みにくいグループであるが、物事にこだわりなく、作った物がこわれてもケロリとして作りなおすといったグループである。

・ cグループ(積木遊びに対しては移動的) はっきりしたグループでなくフラットと気まぐれに積木をするといった幼児たちで、衝動的な幼児や、熱中型の幼児たちが多いようである。

#### 2、交友および構成の変化(表一)

表一にみられるように、積木遊びに対して aグループは、交友関係も遊び方も、非常に活発で発展的に進歩していったのに対して bグループは積木遊びに対しては、他の場での活発さはみられず、aグループにリードされ一足おくれた速度で発展していった。しかし、三学期にはいってからは aグループに合流し、いっしょになっ

て大きく遊びが展開できるようになった。cグループはまったくおくれた発達のみかたであるが熱中型の幼児の遊びは、交友関係はなすが、非常にもしろい構成遊びをしている。

#### 3、遊び方の比較の一例

##### (1) 小高く積む

aグループは高く積む競走をしたり、積んだものに命名して遊んだりしてたのしむが、bグループは積む競走をしても、積んだものを、カラテチョップでこわしっこをしたり、まりぶつけをしたりしてこわしてしまふ。cグループはただいじっているだけの子や積んでもすぐたおしてしまうというようにちがいがみられる。

##### (2) ゲーム遊び

aグループは、話し合いで約束(ルール)をきめ、たのしくゲームができるが、bグループは aグループにヒントを得てゲームがはじめられるが、きちんとした約束(ルール)はなく、その場その場で衝動的に遊びが進められるので、すぐ遊びが、こわしてしまふ。cグループは a、b、グループへ参加するものは少なく、それをたのしそうに見ている幼児が多い。

##### (3) 中積木が加ってからの乗物遊び(図一)

aグループはホゲイ船、南極観測船、客車等を作って中に入り込んで静的に遊ぶが、bグループはガンカン、嵐の船、貨車というように活動的な物を作り活発に衝動的な遊び方を好んでする。cグループはただ型を作って何となく中に入っているだけで遊びにならないのである。

#### 五、考察 一年間の積木遊びを見て

aグループの幼児は他の場では孤立的で内向的な幼児が多いのだが、積木遊びにおいては、協力協同する場が必然的にできるので、

交友および構成の変化

	a グループ (種木あそびに対しては) 種木あそびのグループ)	b グループ (種木あそびに対しては) 種木あそびのグループ)	c グループ (種木あそびに対しては) 種木あそびのグループ)
1. 2 月	<p>交友組の半数位 持続時間 三〇—一五〇分</p> <p>・三日間にまたがることもある。あがりだけの種木を流用し、それでもたらず大種木を持ちこんでできた。組全体が参加することがなびたびあり、部屋全体に遊びが展開した。(こっこ遊び)</p>	<p>二五—三〇分</p> <p>・今流して遊びが展開している。この時は我多張ることは全然なく、よく協力協働ができる。</p>	
1. 12 月	<p>交友 六一〇名 持続時間 三〇—四〇分</p> <p>・二日にわたって遊べる。中種木が加わったため、自分が乗り入りうって創意できるものを作り、思うように創意をこらす。協力協働して作ることが多くなった。他のグループの者の出入が多くなった。</p>	<p>五八名 一八—二五分</p> <p>・立体的に作り、中に入って遊び出したが a グループのような複雑さはない。ボスの女子がはつきりみられる。a グループのように次の日までこわきずにおくが、二百目の活用がない。(個性強く活動的な幼児達のため)</p>	<p>三十五名 七—二三分</p> <p>・今まで、孤立していた子が他のグループに参加できるようになり、参加している時間も長くなり、上手に協力できるようになった。</p>
10 月	<p>交友 六十八名 持続時間 二〇—三〇分</p> <p>・今までの種木だけでは満足せず。他のものを持ちこむ(椅子机、箱など) 中間より中種木半セット加えた。活発になり作ったものに入りこんで遊ぶ。</p>	<p>五十六名 一五—二〇分</p> <p>・九月のくり返しであった。他の組のまかりてくる。一〇月末には少し考えて作れるようになった。中種木が加わっても平面的であった。</p>	<p>三十七名 五—七七分</p> <p>・迷選組がだいぶ活発になってきたが、種木遊びをしたことのない子がいっしょになってしていることがある。</p>
9 月	<p>交友 六十八名 持続時間 二〇—三〇分</p> <p>・目的が発展的で立体的に作ることをのぞみ、作ったもので遊ぶ。他の種木もかりてきて使う。ゲームを考え出す。</p>	<p>五十六名 一五—二〇分</p> <p>・目的意識がすく、偶発的なもの、a グループにヒントを借、まねをする。作ったもので遊ぶ時間はみじかい。</p>	<p>三十五名 五—七七分</p> <p>・絵画製作から迷選したきて種木をいじり出した者が多い。積んでほこわし、積んでほこわしている。</p>
7 月	<p>交友 四—十六名 持続・間 〇—一七分</p> <p>・グループがはつきりしてきた。主動者もはつきりし(三名) 目的をもちパートをきめて仕事ができ、偶然にできたもので遊べる。</p>	<p>三十六名 七—一〇分</p> <p>・グループがはつきりしてきた。目的なく積んでいる。偶然にできたもので遊ぶ。</p>	<p>三十五名 三—七七分</p> <p>・a、b いずれかのグループに加わるもの、一人で遊んでいる者。</p>
6 月	<p>交友 二—十三名 (床上積木) 持続時間 七—一〇分 (二種にて)</p> <p>・作るものはバラバラだが遊びの位置が近くにかたまわって話し合いないがら謀べる。 ・六月十九日作ったものを持ちよって汽車遊びができた。 ・六月三十日汽車と倉庫を共同してつくられた。</p>	<p>一一名 五—七分</p> <p>・個々バラバラで時々交渉を持つがケンカになることが多い。</p>	<p>一名 二—三分</p> <p>・作るというのではなく、a グループ b グループへ行つて、一つ、二つ種木をいじったり、のせたり、ちよつかいを出してこわしてしまふことが多い。</p>

他の場では見られない良い交友ができ協力協同できる上に、何回でもくりかえしがきくので失敗感が少しも残らず成功感を味わうことができ自信がもてるようになる。

b グループの幼児は衝動的でなげやりなところが多くあったが積木あそびによって考える、時と場が自然にあたえられるので創意工夫ができ、落ちついた気持が持てるようになった。ケンカも非常に少なかった。(積木の場では)

c グループは無口で傍観的な子が多いが積木遊びによって、どうしても口をきかなくてはならない場ができるので、だれとでも口がきけるようになった。作られたのしさを知らない幼児(絵画製作をやがる幼児)は作られたのしさを知らなかった。

また、どのグループの幼児も遊んでいるうちにすなおに個性を出すのでよい指導の手がかりになった。

以上のように多くの利点を持つ積木遊びを正しく見まもってより良い社会性をのばす場として用いたいと思う。

## 就学猶予児童のその後の運

### 命について

日本女子大学 長竹正春

加藤翠

本調査は、就学猶予児童がその後どういう経過をたどって、どういう教育機関で教育されるようになってくるのかの実態を追求したものである。

## 第 I 表

就学猶予児童の就学児童に対する割合 (東京都豊島区調)

年度	就学児童			猶予児童			調査した児童数	出生児童数
	男(名)	女(名)	計(名)	男(名)	女(名)	計(名)		
昭 27	1901	1786	3687	13	13	26	0.7	16
28	2547	2321	4868	15	10	25	0.5	20
29	3603	3433	7036	14	20	34	0.5	23
30	3142	3036	6178	26	16	42	0.6	31
31	3164	2980	6144	15	13	28	0.6	26
5か年間			(28813)			(155)	0.54	(116)

であって、豊島区を対象区域として、昭和二十七年から三十一年度までの五年間の就学猶予児童について、家庭を戸別訪問して調査したものである。

第 I 表に示されている通り猶予児童は五か年間平均して就学児童の〇・五四％にあたり、年次的な変化の傾向はうかがえないようである。

第 II 表の示すごとく調査してきた児童は猶予児童として区役所に登録されている者の七五％にあたり、できなかった児童は、移転、死亡、不明などの理由であった。

第 III 表に示されているごとく、五か年間の猶予児童が現在どのような教育機関で教育されているかを見ると、猶予第一年度の児童(三十一年度猶予児童)では、七三・一％が家庭に、一九・二％が幼稚園に通っており、ごく少数例が施設などには入っている。それが二年目(三十年度猶予児童)になると家庭にいる者が半数に減り、四年目(三十年度猶予児童)になると家庭に入學して入っている。そして特殊学校(学級)施設などへは、合せて一三％入っており、猶予後二年して